

韓国の貨幣に描かれている人物

韓国の 100 ウォン玉、1000 ウォン札、5000 ウォン札、10000 ウォン札、50000 ウォン札には韓国を代表する偉人たちが描かれておりますが、どのような人物なのか、皆さんはご存じでしょうか。今月のメールマガでは、韓国の貨幣に描かれている人物について見ていきたいと思います。

◆100 ウォン



人物の名前：李 舜臣（イ・スンシン）

朝鮮王朝の武将（1545－1598）です。仁宗元年3月8日生まれ、1576年武科に及第し1591年には、全羅左道水軍節度使となります。翌年、豊臣秀吉の第1次朝鮮出兵（文禄（ぶんろく）の役）の際、亀甲船で日本軍の補給路をたち、功をたてるが、のち讒言（ざんげん）により罷免されます。1597年、秀吉の第2次出兵（慶長の役）で再起用され、日本軍追撃に活躍しますが、宣祖31年11月19日の島津勢との戦いで戦死しました。その後、救国の英雄として忠武公の名が送られました。現代、韓国において李舜臣は国民的な英雄とされており、韓国の100ウォン玉に肖像画が描かれているだけでなく、韓国ソウルの官庁街である世宗路には銅像が建てられています。



【写真1】復元した亀甲船（거북선）



【写真2】世宗路にある「李舜臣」の銅像

また現在（2014年7月）、韓国では李舜臣を素材とした映画、「명량（ミョンラン）」が大きな人気を博しています。



【写真3】映画「명량（ミョンラン）」のポスター

◆1000 ウォン



人物の名前：李 滉（イ・ファン）

李氏朝鮮の儒学者（1501－1570）です。慶尚道の安東（現在の韓国慶尚北道安東市）出身で、科挙¹に合格した後に中央や地方の官僚として活躍しました。文科及第ののち成均館²の司成となりますが、1545年の乙巳士禍³で失脚することになります。その後、度重なる出仕の命に応じて丹陽郡守となり、豊基郡守時代に朝鮮半島初の賜額書院⁴を実現して書院文化を築きました。成均館大司成などを歴任しましたが、1560年には郷里に隠棲し、「陶山書院」を開き、儒教の研究と後進の育成に力を注ぎました。「陶山書

1 朝鮮時代の官僚になるための試験

2 朝鮮時代の最高の教育機関

3 1545年、李氏朝鮮の明宗時代に起きた、明宗の外戚尹元衡（文定王后・尹氏の弟）らによる、鳳城君を推戴しようとした反対勢力である先代仁宗（明宗の異母兄）の外戚の尹任と彼に登用された士林らの肅清事件

4 「書院」とは、李氏朝鮮時代に地方の儒者が立てた私設の学問機関で、儒学を研究したり賢人を祭ったりした場所である。このうち国家により権威が認められた書院は、国王から扁額（入口に掲げられる名前入りの額）をいただくこともあった。額を下賜された書院なので、これを「賜額書院」と言う。要するに、名門書院ということである。ただ、時代が下ると賜額を乱発するようになり、その権威も相対的に低下するようになった。

院」は王から扁額を賜った賜額書院として朝鮮の儒教の興隆のさきがけとなりました。



【写真4】「陶山書院」の前景

◆5000 ウォン



人物の名称：李 珥（イ・イ）

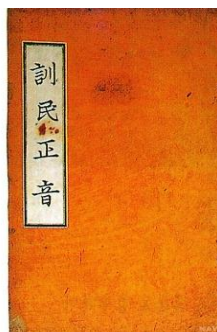
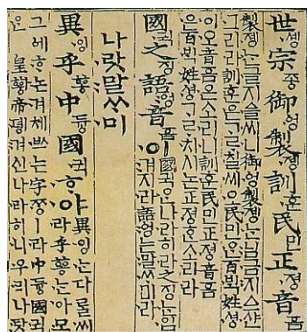
5千ウォン紙幣に描かれているのは、栗谷李珥（ユルゴッイイ、栗谷は呼称）という人物です。朝鮮中期（1536－1584）の政治家であり、学者でもある人物で、「韓国儒学の父」とも呼ばれています。朱子学者として、1000ウォン札に描かれている李滉とならぶ二大儒と称されています。当時、国際情勢を見て日本が朝鮮に攻めてくることを予測し、軍人十萬傭兵説を声高に主張した人物でもあります。

◆10000 ウォン



人物の名前：世宗大王（セジョン大王）

朝鮮時代の第4代王（1397－1450）として様々な科学的業績を残しています。その中でも、現在の「ハングル」の母体になった「訓民正音」は非常に高く評価されています。また世界初の雨量計である測雨器を考案し、日時計と水時計などの発明にも関与しています。文化、国防などに秀でた業績を残し、朝鮮時代の王の中で最も優れた王であるという功績が称え、現在では大王という呼称がついて、「世宗大王」と呼ばれています。



【写真5】訓民正音

【写真6】世宗路にある「世宗大王」の銅像

◆50000 ウォン



人物の名前：申師任堂（シン・サイムダン）

韓国では、2009年6月に5万ウォン紙幣がはじめて登場しました。1973年に登場した1万ウォン紙幣をぬいて最も高額な紙幣となったのです。紙幣に描かれている人物は、申師任堂（シン・サイムダン）という人物です。朝鮮時代中期（1504－1551）の女流書画家で、韓国の貨幣で実存女性が描かれたのは今回が初めてです。申師任堂は、山水、葡萄、草、虫などの絵画、漢詩などの分野で優れた作品を残しているだけでなく、7人の子女の教育に励んだ「良妻賢母」の象徴的な人物とも言われています。5千ウォン札の肖像となっている儒学者の李珣（イ・イ）も息子の1人で、紙幣で親子共演を果たしているといえます。笑



【絵1】「申師任堂」の作品

編集者：金 光一（TCS 韓国語講師）